

アロマセラピーの生理学的基礎：香りの官能評価スクリーニング 手法の確立

広島女大健康科学 ○菅原芳明

目的 最近、日本でも社会の高ストレス化・高ストレス社会の深刻化に対応する処方箋の一つとして、ハーブなどの香油を用いるアロマセラピー（芳香療法）が注目され、その応用への関心が高まっている。本研究の目的は、アロマセラピーの香油に関して、香りの心理的・生理学的効果を客観的に評価するなどの基礎的研究を行うことである。昨年の本大会では、香りの評価に『作業』の視点を導入した官能評価法を報告し、3種の香油（ヴァンダ、ローズマリー、リロール）について、それらの客観評価を試みた。今回、この方法に基づき、11種の香油について作業と香りの関連性を検討すると共に、この手法が汎用的な香りのスクリーニング手法となり得るか否かを検討した。

方法 被験者に課した『作業』は、精神作業（クレペリン精神検査）、踏台昇降運動、環境音聴取の3つである。それらの『作業』の前後でSD法に基づく官能検査を行い、官能差をt-検定した。t-検定の結果をスコア化し、官能検査の印象項目すべてについて、そのスコアを加算した値を有意スコア計と定義し、有意スコア計を指標とした香りを評価・スクリーニングを試みた。

結果 本法が汎用的な香りの官能評価スクリーニング手法となり得るとの成績を得た。